

清涼飲料に関する調査と考察

○武藤政美 嶋村孝 堀口恵子 (明和女子短大)

【目的】清涼飲料は爽快味を有し、アルコール分1%以下の飲料で、炭酸や香料の有無、原材料の種類などにより、19種類に分類される。この分類にもとづき、清涼飲料がどのように利用されているのか、特に茶飲料の利用状況などを調査するとともに、清涼飲料の爽快感が生理的なものかどうか、実際の効能を検証した。

【方法】清涼飲料の利用状況についてはアンケート調査を行った。短大生99名を対象に平成7年11月2日に実施した。主な内容は清涼飲料の原材料による分類にもとづき、その飲料の購入方法、利用目的を簡単に調査できるよう工夫した。さらに利用度の高い茶飲料について、飲料別の人気とその利用状況などを回答してもらった。

また、清涼飲料のもつ爽快感が体温の変化に関係があるかどうか、炭酸飲料、スポーツ飲料、温水、冷水飲用時のものど、みぞおち、腋下の温度変化をサーミスタで測定した。

【結果】アンケート調査の回収率は97%であった。よく飲用する飲み物は茶飲料が特に多く果実飲料、コーヒー飲料の順であった。購入はコンビニエンスストア、自動販売機が圧倒的に多く、平日の学生の生活環境を反映していた。飲用目的はのどの渴きを癒したり、食事時の飲み物、体温調節が主なものでどれも茶飲料が利用されていた。茶飲料は約5割の人が清涼飲料中8~9割の率で利用しており、家で煎れる茶類と同様に習慣的な傾向の強いことが推察された。また、清涼飲料水飲用時の皮膚温の変化について、炭酸飲料の爽快感は単に刺激によるものだけではなく、炭酸を含まないスポーツ飲料に比べ比熱が大きく、皮膚温の変化をとまなうことが観察された。